

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 30 年は 1,551 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 30 年は 956 トンとなりました。

## 2. 令和元（2019）年 6 月～8 月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 21 トンの水揚げで、前年の 4,200 %、平年の 15 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 92 トンの水揚げで、前年の 88 %、平年の 74 %でした。

## 3. 令和元（2019）年 10～12 月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では前年・平年を下回り、志布志湾海域では前年を上回り、平年並と考えられます。

（根拠）

西薩地区では、カタクチイワシの来遊量は、夏降水量と秋漁の関係から前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、夏季降水量と秋漁との関係から、前年を上回り、平年並と考えられます。

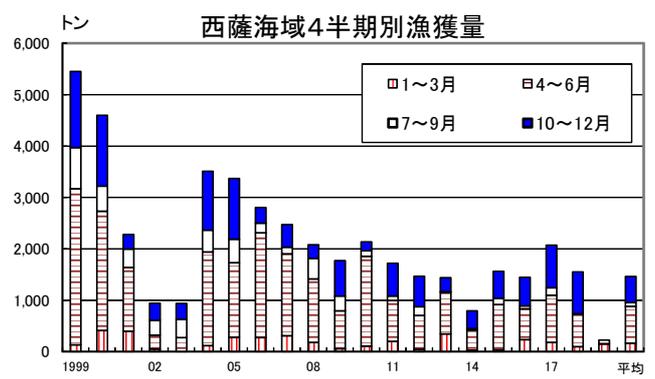
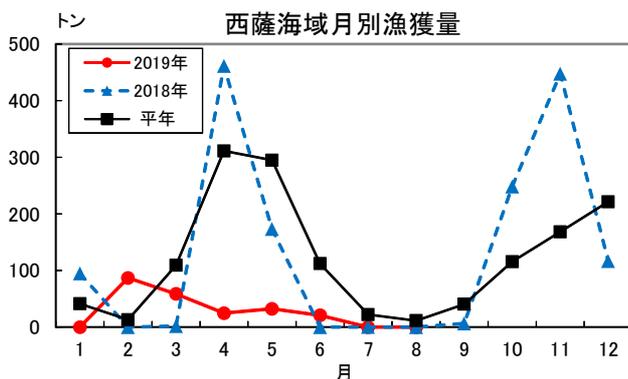


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

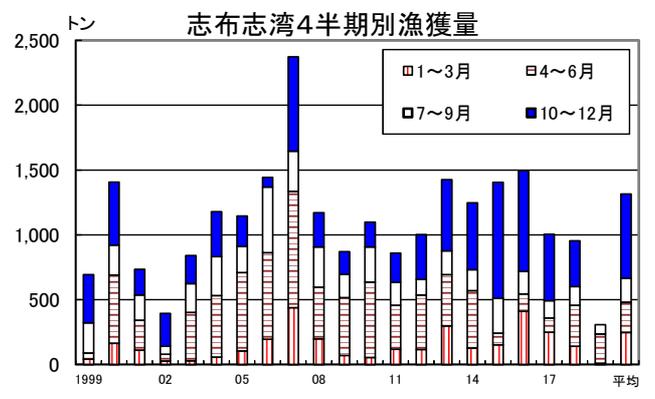
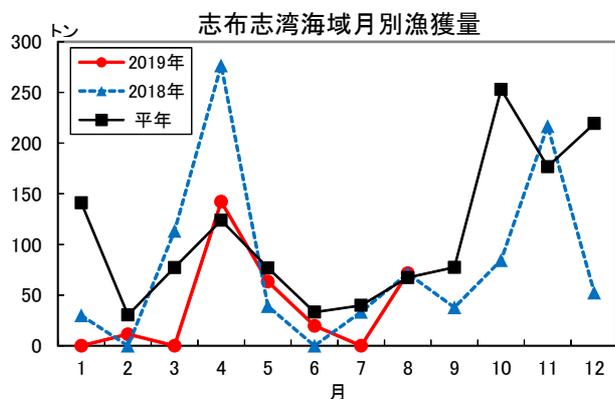


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年の平均値 (AV)、令和元（2019）年 8 月 31 日までの水揚量を使用